

2017年07月18日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【7月20日のECB理事会に注目】

連日の猛暑で、どこことなく外国為替相場も、積極性が薄れている、といった印象。

「夏休み相場」で、徐々に、市場参加者が少なくなっていることが、感じられます。

そういった状況下で、明日・明後日(7月19日・20日)と、日銀の政策決定会合が予定されています。

今回の日銀の政策決定会合では、金融政策の変更は無いだらう、と考えています。

そして、7月20日に、ECB理事会が予定されています。

今回のECB理事会では、ECBが出口戦略に関して、何かしらのヒントを出すのではないかと、といった思惑を想定している市場参加者も多い様子です。

ドイツからは、多方面から、金融引き締めを期待する声が上がっています。

一方で、ドイツ以外の多くの国々は、景気回復が遅れており、ユーロ金利の上昇を望まない様子が伺えます。

「ECBが、こういった状況を、どのようにとらえているのか？」

「ECBは、今後、こういったスタンスで臨むのか？」

その点に絞って、7月20日のECB理事会に注目したい、と考えています。

+++++

比較のために、米国の金融政策を見ると、先週の議会証言で、イエレンFRB議長は、利上げを急がない旨を述べています。

急速な利上げはローン金利上昇を招き、住宅や自動車の購入にとってはマイナス材料。

そうしたリスクに配慮して、イエレンFRB議長は、「慎重な利上げ」を表明した、と考えます。

FRBは、バランスシートの縮小開始を表明していますが、イエレンFRB議長が利上げを急がない旨を明言したので、市場参加者は、米国の金融引き締めに関して、マイルドな印象を持った様子です。

+++++

(2017年07月18日東京時間14:10記述)